

ゲストスピーカー かたやままゆさん

「非営利事業の経営を考える」

(1) 今、思うこと

団体を立ち上げて1年、「人と資金」の課題に悩んでいる。一緒に活動する人は、誰でもいいわけではなく、大判振る舞いでサービス提供できるわけでもない。

(2) 活動を始めたきっかけ

団体名は **BumpyCompany**。意味は、前者「でこぼこ」後者「一緒につくる仲間」。理念は、お互いを認め合う地域を目指す。好き嫌いや苦手も己を知ったうえで認め合うことが必要だと思う。

活動地域は知多市。ゆくゆくはもっと広がってほしいと考えている。まちづくりをする「地域」ってなんだ？息子曰く「オレは地域じゃない。地域は友達。友達にとってオレは地域。だから地域は大切なんだ！」なるほど！共感している。

(3) 「自分に合わない子」に出会った

今も現役の保育士だが、新人のころに担当した教室の中に「自分に合わない子」がいた。その子の親ともそりが合わず、官保育サービスについて考えるようになった。官保育は子どもの育ちにフォーカスされた保育ではなく、親が困っているから使うサービスになっている。自分の正義と折り合うことができず退職した。

自分自身も結婚・子育てを経て悟ったことは「人は、その時々で立場で変化するし、その人の要望も変化する」ということ。

(4) 教育とは

お母さんという立場を利用して子どものパーソナルスペースを冒す、または考えを押し付けるような密着過ぎる親子関係に気づいた。保育に携わった15年を振り返り、関係性の近い親子がとて多いと気がかりになっている。

「どこでも生きていける子＝自立」を育てる教育が私の方針であり、活動の根幹にある想い。仲間とともに「生きていく力を育む」ことに共感して活動している。例えば、身の回りの生活の自立（トイレトレーニングや食事は親子間の信頼関係を築くチャンスなのに、後回しにすることでそのチャンスを失っている）

○楽しい遊びと学び

○人との関わり（異年齢の関係性から気遣いが生まれる）

○定型発達は、何も言われなくてもできるが、発達に偏りがある場合は、その子に合った支援が必要。

(5) だから、放課後スクールを始めます

○始めは親子で楽しく経験できる場として、未満児を対象にしたベビーマッサージを始めた。その中で悩む母の存在があった。

○ステップアップを目指して「みんなの学校」(ドキュメンタリー映画)の上映会を開催、小学生低学年へのサポートが必要と気が付いた。

○今年からこの2階で、定員8名の放課後スクールを始めた。宿題を終わらせて自立を育むプログラムを火曜、金曜の週2日、2時間。1回の利用料金は500円。

○今は、寄付や友達の気持ち(ボランティア)で成り立っているが、それでは事業として継続できない。利用者や助けてくれる友達をこのまま巻き込んでもいいのか?!

○事業の方向性を確かめるためにも、今年度愛知県が主催する「あいち・ウーマノミクス推進事業 女性によるソーシャルビジネスプラン「輝く女性 ソーシャルビジネスプランコンテストあいち2016」に申請した。

(6) 自分のやりたいことに磨きをかけています

○今年、家庭教育支援チーム(文科省)へ登録した。自分のやりたいことをいつも考えている。多様な個性をどうしたら受け止め、受け入れることができるのか?

ふりかえりとまとめ(参加者の感想と意見交換をもとに)

①ミッションやビジョンが同じ価値観を持ち合わせた人、それが強いかどうかはわからない。

②ゆるやかなミッションを共有し、それに対して違うアプローチができる仲間ではないか。

③辛さや楽しさを共有できる仲間と個の課題解決をしながら、社会問題を解決できる人のつながりをつくる。それがチームの中なのか、外なのか、人が集まる仕掛けを考えた方が良い。